

LME銅は米量的緩和長期化期待で上昇も、上値重く NY銅は雇用統計控え様子見、LMEはECB利下げ懸念

6日入電のLME銅相場は前日比4ドル高の7,141ドルと反発。米量的緩和長期化期待で上昇もECBによる利下げ可能性で上値重い。

NY銅相場は0.50セント高の325.25セントと反発。今週末の雇用統計発表控え、様子見広がり小幅な値動き。

NYカーブは7,162.75~7,163.25ドルで、LME先物比は13.00ドル高となった。

錫は終盤値を上げ、反発する

LME錫相場は120ドル高の2万2,850ドルと反発。ユーロ安の影響は限定的で、終盤に買いが増え、値を上げ終える。

鉛はユーロ安の影響限定的も、続落

LME鉛相場は6ドル安の2,123ドルと続落。ユーロ安で値を下げるが、後半持ち直す。

亜鉛はユーロ安の影響受け、続落

LME亜鉛相場は7.5ドル安の1,883.5ドルと続落。ユーロ安の影響を受け、続落。

アルミはユーロ安の影響大で、続落

LMEアルミ相場は14ドル安の1,766ドルと続落。ユーロ安の影響を受けて続落となった。LMEアルミ合金は前日と変わらずの1,779ドル、北米特殊アルミ合金は前日と変わらずの1,822ドル。

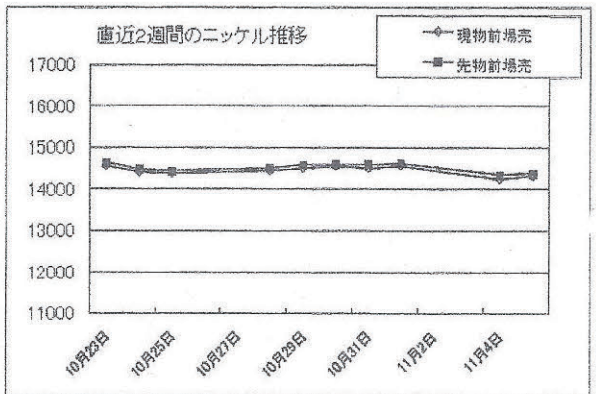
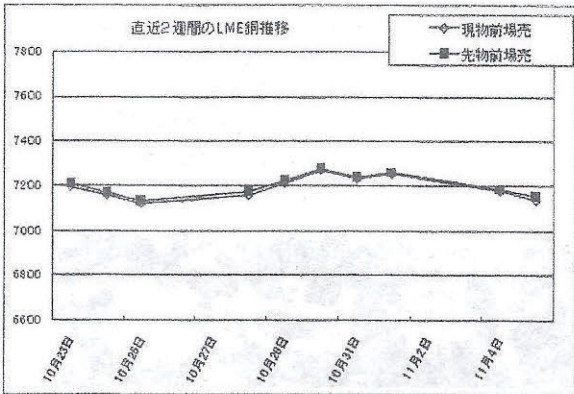
ニッケルは在庫増懸念も、持ち直す

LMEニッケル相場は15ドル高の1万4,275ドルと反発。在庫増で下落も、後場は持ち直した。

KLTM錫は17.1セント反発

採算値は4,000円高

KLTM錫は17.1セント高の73.073Mドルと反発。USドルは50ドル高の2万2,950ドルで、出来高は36トン。Mドル/USドルレート=3.1840とTTSレート99.55円で換算した採算値は4,000円高の228万9,000円、諸掛込みの採算値は4,000円高の244万9,000円。



橋本健一郎氏の銅スクラップの10月レポート及び11月見通し

■概況:前半は中国の9月の銅輸入が+16.7%の45万7847と昨年5月以来の高水準だったことに加え、9月の米ADP雇用者数が事前予測を下回ったことやアメリカISM非製造業景気指数54、4と予測の57を下回ったことなど金融緩和継続に関するプラス材料もあり、アメリカ財政問題による資金移動から金属は上昇する場面はあったが、やはりアメリカのデフォルト問題は大きく小幅下落。7206ドル(セツル)と前月最終価格より46ドル下げての前半締めとなった。

後半は10月のユーロ圏総合PMI速報値は51.5に低下、予想の52.5を下回ったこと、中国当局の金融引き締め観測や中国の不動産抑制策などのマイナス材料はあったが、アメリカ週間新規失業保険申請件数は35.8万件に減少、予想の33.5万件を上回ったこと、9月の米雇用統計で失業率は7.2%と改善したものの非農業雇用者数が14万8千人と予測の18万人を大幅下回ったことによる金融緩和継続期待から上昇。11月1日現在、前半締めから25ドル上昇の7234ドル、建値75

万円のスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+13%の87万3623台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+17%の26万4587台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+19.4%の8万8539戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-0.5%の4万4851t、スクラップが-1.9%の2万7305t。輸入は電気銅が前年比+13.7%の2679t、スクラップ-29%の5281t。前月の国内指標では、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)は前年比+4.5%の6万6540t。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)は前年比+3.8%の5万9900tであった。

■見通し：9月はアメリカ債務引き上げ問題と中国の金融引き締め観測に一喜一憂となった。

自動車生産は前年比+13%の13月ぶりプラス。乗用車+12.7%、トラック+15.7%、バス+7%。販売の方は2か月連続前年超えの前年比+17.3%。乗用車+18.6%、貨物+8.8%、バス+12.4%。新設住宅着工戸数は先月に続き13か月連続増加となる前年比+19.4%(前月比(季節調整済み)+8.8%)の8万8539戸。今月も堅調な住宅関連では持家+14%、貸家+21.5%、分譲住宅+23.5%と大幅増。消費税導入前の駆け込み需要から伸銅品生産量は前年比+4.3%の6万6540tと3か月連続前年を上回る。輸出は円安を追い風に6か月連続前年プラスの+12.2%。銅電線出荷量は前年比+3.8%の5万9900。うち国内+3.4%、輸出が+19.9%、通信+6.5%、電力-4.8%、電気機械+1.4%、自動車+10.1%、建設電販+10%。輸出に関しては電気銅輸出が前年比-0.5%の4万4851tと減。銅スクラップ

も-1.9%の2万7305t。円安で輸出環境であるものの好調な国内生産を背景に国内需要も原料手当てを急いだため輸出は減少した。輸入は電気銅が+13.7%の2679t。スクラップは-29%の5281t。内需の好調から電気銅の輸入が増加したとの見解。

銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+19.4%13か月連続増加、持家+14%、貸家+21.5%、分譲住宅+23.5%と大幅増。待望の自動車は生産が13か月ぶりの+13%。さらに9月の国内販売台数が前年比+12.4%と大幅増。予測の通り販売増につられて生産が増加。住宅、自動車の2本柱が復活し今後供給不足が拡大するの可能性がある。

銅価格に関しては、今月は米FRB金融緩和縮小開始と米経済指標に左右される。先月に続き金融緩和縮小も発言が二転三転しておりマーケットも若干織り込み済み。新規材料難の中狭いレンジで動くのでは。それらを踏まえた銅価格は10月後半高値付近の7300ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起こった場合10月後半安値の7100ドルを予測。為替は新規材料難の中金融緩和縮小開始があればドル高になるものの織り込み済みとの予測から前月と変わらずでAve98円との予測。銅建値に関しては730-750円程度と予測している。

	7月	8月	9月
生産台数	91万114台	68万487台	87万3623台
前年比	-1.5%	-7.6%	+13%
販売台数	8月	9月	10月
前年比	21万7411台	32万4915台	26万4587台
前年比	-6.4%	+12.4	+17%
新設住宅着工数	7月	8月	9月
前年比	8万4459戸	8万4343戸	8万8539戸
前年比	+12%	+8.8%	+19.4%
輸入	7月	8月	9月
電気銅	5287t	901t	2679t
前年比	+151%	-63.3%	+13.7%
スクラップ	5765t	5240t	5281t
前年比	-1.4%	-22.6%	-29.7%

輸出	7月	8月	9月
電気銅	3万9694t	4万2006t	4万4851t
前年比	-0.7%	-1.7%	-0.5%
スクラップ	2万2602t	2万3968t	2万7305t
前年比	-17%	+6.9%	-19%

